道徳科における深い学びに到達した児童像

〇一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている。

・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や、その時の心情を様々な視点から捉え考えようとしている。

・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。

・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取りうる行動を多面的・多角的に考えようとしている。

〇価値の理解を自分との関わりの中で深めている。

・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。

・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。

・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的な価値の理解を更に深めている。

・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

〇話し合うことで、自分の考えを深めている。

・教師や他の児童の発言に聞き入っている。

・教師や他の児童の発言から考えを深めようとしている。

・既習の内容と関連付けて考えている。

児童像の実現のために効果的だった手だて

・**導入の工夫**…事前アンケートを用いてクラスの実態を明らかにすることで、追究したいことが明確になる。また、自分事として考えられるようになる。

・**心の日記・ワークシートの振り返り**…子どもたちなりの言葉で本時のねらいについて自分との関わりの中で考え、これからの生き方を考えられるようになる。

・**クラウドの活用**…自分の考えの中途を共有することで、児童は、短時間で自分の考えをアウトプットし、友達の考えをインプットできる。その上で自分の考えを再構築し、さらに高まった自分の考えをアウトプットすることができるようになる。

・**役割演技・動作化…**限られた児童だけが役割演技をするのではなく、見ている人にも視点を与えて話合いに参加させたり、全員で動作化したりして主体的に考える機会を設けることができる。教師の切り返しでねらいについて深く考えさせることができる。また、小道具を使うことで、自が関与して考え、本音を引き出して話し合うことができる。

・**グループの話合い**…３人程度のグループにすることで、多面的・多角的に考える機会を設けることができる。傍観者にならず、自分の案が絵を伝え、相手の考えを聞くことができる。自分の考えに確信をもったり、新たな考えに気づいたりして納得解を得ることにつながる。

実践の成果（〇）と課題（▲）

〇動作化や役割演技等をして体験的に考えることで、自分の考えを明確にもつ個別最適な学びにつながった。

〇ICT を活用し、自分の考えを基に友達の考えに触れ、自分の意見を再構築する過程を繰り返すことにより、学びの自律化につながった。

〇心の日記やワークシートを活用した自己の振り返りは自分のよりよい生き方を探究することにつながった。

▲体験的な学習や ICT の活用等多様な学習過程を取り入れることで学びが深まる一方、授業時間のマネジメントが難しくなるので、精選していく必要がある。